6次産業化関連法規

(1)科目のねらい

6次産業化に関する法律を学ぶことにより、事業に影響を与える外部要因を理解し、事業環境を的確に把握できるようになることがねらいです。

(2)単元の内容

- ①6次産業化法
 - 6次産業化・地産地消法の目的・概要を理解します。
- ②農商工連携法

農商工等連携促進法の目的・概要を理解します。

③6次産業化や農商工連携の推進のための各種支援制度 6次産業化・地産地消法や農商工連携法に係る各種支 援制度の概略や支援措置等の概略などについて理解しま す。

なお、プログラム実施機関により地域の状況や受講者の属性などを踏まえ、上記に記したもの以外にも、地域の食や農に係る新たな関連法規や制度等があれば講義を 実施することを推奨します。 外部講師による講義を実施する場合には、各省庁の地 方局や都道府県・市町村の職員、地域の中核機関担当者、 制度支援者などに依頼することで、受講者が実際に支援 制度を利用する際の窓口となることが期待できます。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

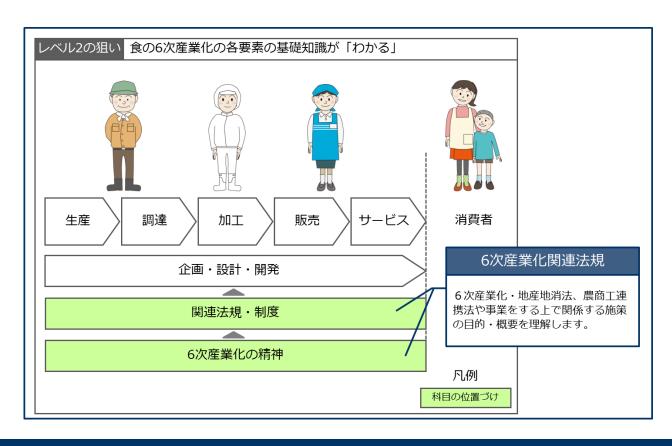
·座学×60分

(4)関連科目

・レベル1:6次産業化論

・レベル2:6次産業化事例分析

・レベル3:6次産業化関連制度 (支)



6次産業化事例分析

(1)科目のねらい

「財務の基礎」「マーケティング(基礎)」などの科目で習得した知識に基づき、6次産業化の事例を分析することで、6次産業化を実現する上での成功要因、課題の要因を学びます。

本科目は、レベル1、レベル2の各科目で理解した知識を駆使してみるなど、レベル2段階の総合演習の場として位置付けています。

(2)単元の内容

- ・6次産業化の事例
- 6次産業化の具体的な事例を取り上げ、損益分岐点や 収支計画、マーケティング戦略などの観点からテーマを 決めてその事例を分析します。

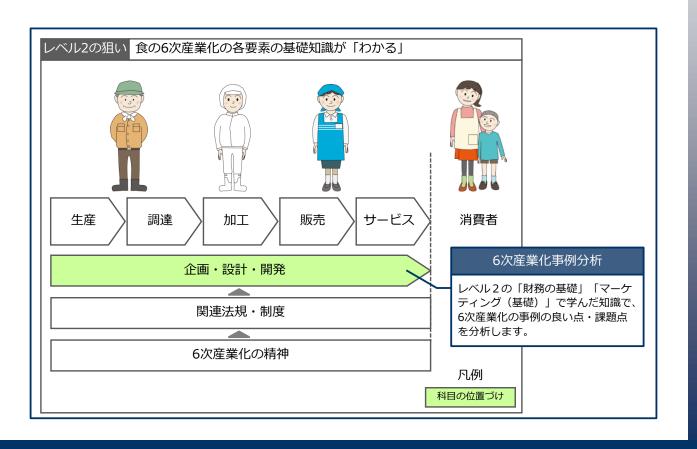
分析の際は、必ず現状把握、優れた点、今後の課題、 課題の解決策まで考えるようにします。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- ·事例学習×90分
- ・時間に制約がある場合を考慮し、テーマを絞った時 に最低限必要な時間として記載しています。その場 合でも、事前課題などを適切に取り入れて運用する ことを推奨します。

(4)関連科目

- ・レベル1:経営及び経営分析の基礎、
 - 経営及び経営分析の基礎(事例)
- ・レベル2: 財務の基礎、マーケティング(基礎)
- ・レベル3:経営戦略、経営戦略(事例)



食品衛生管理(応用)

(1)科目のねらい

レベル1の食品衛生管理(基礎)相当の知識を前提とし、食の安全・安心に必要な知識を習得します。

(2)単元の内容

①食品衛生管理の事例

地域の事例等を用いて②③に関する食品衛生管理の取り組みを学びます。

2GAP · HACCP

 $GAP \cdot HACCP$ などによる食品衛生管理システムの構築・運用の重要性を理解します。

③トレーサビリティ/FCP (フード・コミュニケーション・プロジェクト)

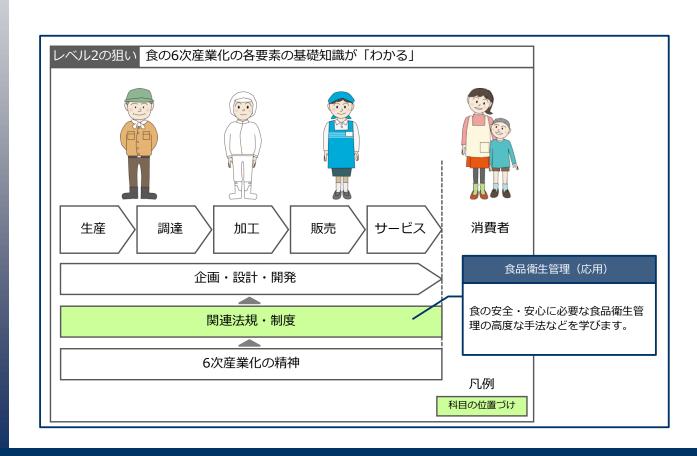
食のバリューチェーンが複雑化する中で、安全・安心を担保する手法やその具体的な取り組み、商品情報を的確に訴求し差別化要素とするなどの方法を学びます。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · (座学+事例学習) ×60分
- ・事例学習は「食品衛生管理の事例」
- ・時間に制約がある場合を考慮し、テーマを絞った時に最低限必要な時間として記載しています。その場合でも、事前課題などを適切に取り入れて運用することを推奨します。

(4)関連科目

・レベル1:食品衛生管理(基礎)



農業技術と水産技術

(1)科目のねらい

今後の6次産業化の競争優位の源泉となり得る農林水産業の技術的な動向・概要を体系的に理解します。多くの6次産業化で、競争戦略上の差別化戦略、高付加価値の商品開発を模索する必要が生じます。

その際、技術が差別化や高付加価値化の拠り所となる ことが考えられることから、最新の農業技術と水産技術 を学び、併せてビジネス上どのような活用ができるのか を発想する意識を養うことがねらいです。

(2)単元の内容

· 栽培技術/漁法 · 養殖技術

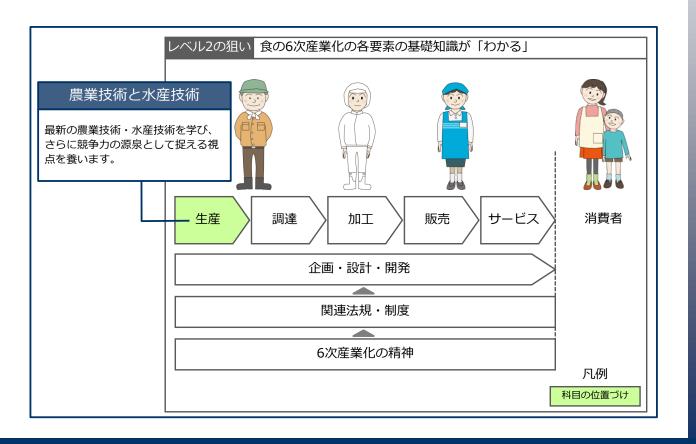
地域の農林水産業の特性などに合わせ、取り上げる技 術を選択します。単純な技術を学ぶのではなく、シーズ (技術)をどのようにニーズに結び付けたのかなどを学 ぶことが望ましいです。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · (座学+実習) ×90分
- ・時間に制約がある場合を考慮し、テーマを絞った時 に最低限必要な時間として記載しています。その場 合でも、事前課題などを適切に取り入れて運用する ことを推奨します。

(4)関連科目

レベル1:農産物と水産物



食品加工(応用)

(1)科目のねらい

レベル1で食品の生産・加工・流通の基礎の習得していることを前提として、食品に必要な栄養成分の知識習得、加工食品の付加価値となる機能性成分についての理解を深めます。また、これらの成分を抽出するための加工方法や食品製造の過程で保持するための保存技術・包装技術などについての知識を習得します。

(2)単元の内容

①栄養成分

主な食品成分とその性質を理解します。

②機能性食品

機能性食品の定義・分類や関連法などを体系的に理解 します。その中で、特定保健用食品についても取り上げ ることが望ましいです。

③食品の保存・加工・包装方法

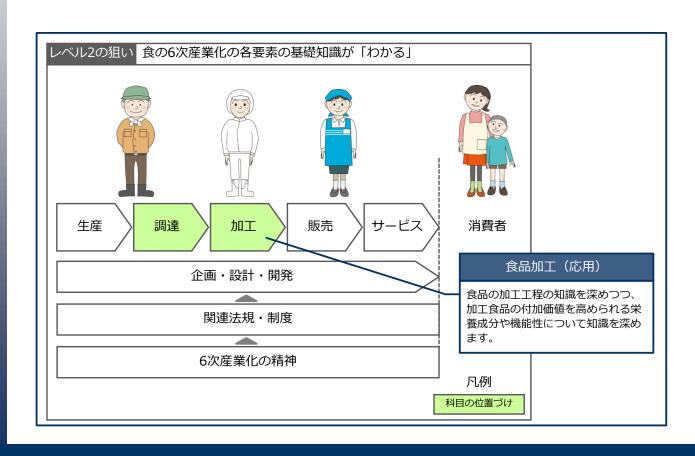
食品の保存・加工・包装方法と品質変化の関係、品質 保持のための工夫や注意点を理解します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · (座学+実習) ×60分
- ・実習では、食品の加工工程体験などを想定しています。
- ・時間に制約がある場合を考慮し、テーマを絞った時 に最低限必要な時間として記載しています。その場 合でも、事前課題などを適切に取り入れて運用する ことを推奨します。

(4)関連科目

・レベル1:食品加工(基礎)



農業・水産業および食品加工・流通関連法規

(1)科目のねらい

6 次産業化を構想する上で、バリューチェーンの各段 階で求められる各種の法的知識を習得します。

(2)単元の内容

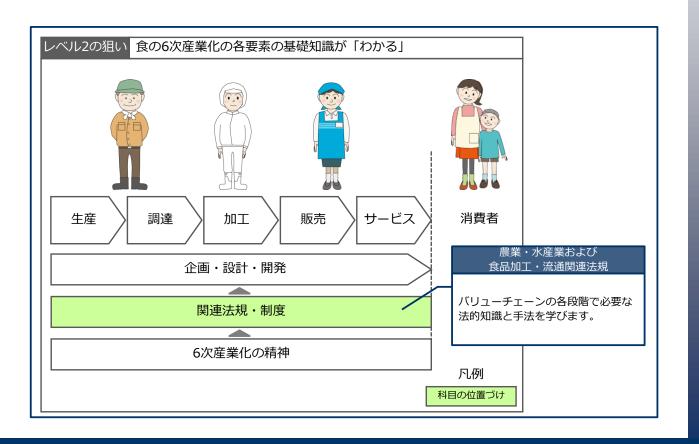
①農地法・都市計画法/家畜伝染病予防法/漁業法/PL法

上記に記したもののうち、育成プログラムの設計思想 や受講者の属性に応じ、少なくともどれか1つ関連法規 を学びます。

② J A S 法/ 景品表示法などの表示制度 食の安全・安心の確保のために法的に必要となる、食 品表示の重要性を理解します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- ・座学×60分
- (4)関連科目 なし



マーケティング(基礎)

(1)科目のねらい

6次産業化に限らず、ビジネスでは具体的な消費者と ニーズを想定して商品・サービスを開発し、売れ続ける 仕組みを作る必要があり、マーケティング戦略を学ぶこ とが役立ちます。レベル2では、具体的な手法よりも、 常に顧客起点でニーズを考えることの重要性を学び、 マーケティング戦略の概念を理解することが重要です。

(2)単元の内容

①顧客と消費者

顧客は直接の取引相手、消費者は、商品・サービスの エンドユーザーであることを理解します。

②マーケティングの定義・考え方

マーケティングの意味やねらいなどについて、プロダクト・アウト(作り手)とマーケット・イン(顧客)の対比から、マーケティングの基本的な考え方を理解します。

③マーケティングプロセスの全体像

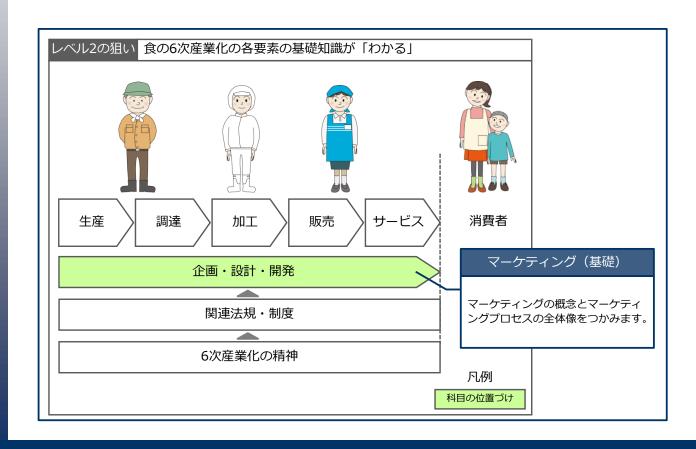
事業環境分析、STP分析(Segmentation, Targeting, Positioning)、マーケティング・ミックスといったマーケティングを理解するためのプロセスや各手法の意図を理解します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · (座学+事例演習) ×30分
- ・独立した講義というよりは、6次産業化において重要な概念であるマーケティングを適切に理解するための 導入に要する時間として位置付けています。

(4)関連科目

・レベル3:マーケティング(応用)



事業計画(基礎)

(1)科目のねらい

事業計画書の全体像と基本的な構成を学び、事業を計画することとは「具体的に何を検討し」「決めることなのか」を理解します。また、事業計画の核となる要素(ねらい)を理解します。

(2)単元の内容

- ・事業計画書の作成方法ガイド
- 一般的な事業計画書の構成をもとに、各項目で「何を」考えるか、また、各項目がどのように連携するのか について理解します。
- 一般的に事業計画の講義では、項目の解説や演習を重視しがちになるため、この講義で要素間の関係性を頭に入れてもらうことが望ましいと考えられます。

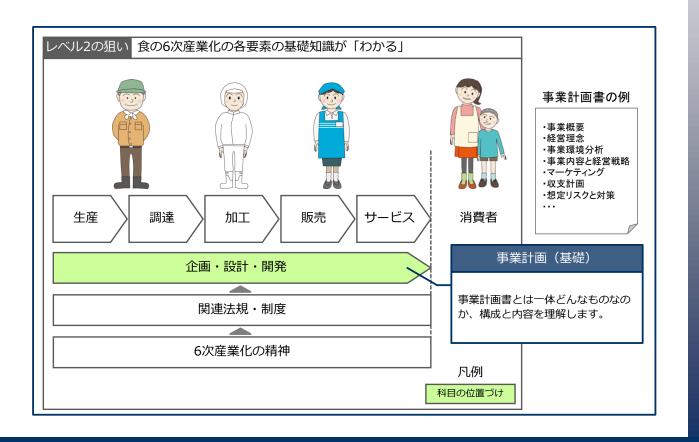
加えて、それまでに行った講義や今後実施する予定の 講義の内容がどのように事業計画策定に役立つかを解説 します。 なお、公的機関等の補助金や認定を受ける際に提出する申請書を使う際は、ビジネスとしての事業計画という 視点で講師側がレビューし、不足している点を補足する 必要があります。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- ·座学×180分
- ・この段階では、事業計画を作成することが目的ではなく、全体像とアイデアの核となる部分を理解し、 実際に自分が事業計画を作成する際の"地図"を持ち帰ってもらうために、座学までにとどめています。

(4)関連科目

- ・レベル2:事業計画 (応用) ^(支:事業主等ではレベル3)
- ・レベル3:事業計画(診断) (支)



財務の基礎

(1)科目のねらい

事業計画を立案する上で損益計算を行い収支の見通しを把握することは非常に重要となります。本科目では、これらを理解する準備として、原価計算の枠組みを理解します。

(2)単元の内容

①原価計算の目的

収支計画を立てる際、損益分岐点という考え方があることを理解した上で、原価計算が損益分岐点の算出に必要な概念であることを学びます。

②原価計算の方法

①で理解した原価計算の概念をもとに、実際に原価計算の手法を学びます。

③収支計画の作成方法

単年度収支の試算方法と複数年度の収支計画の構成・ 作成方法を理解します。主には、売上計画・費用試算 (製造原価、初期投資額)、資金調達計画などの立て方 を理解します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

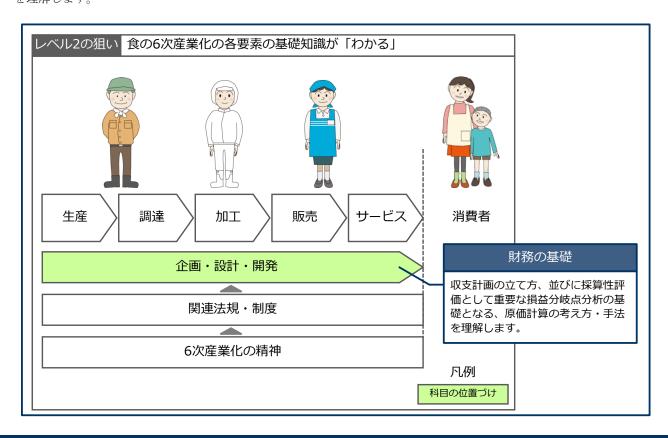
·座学×90分

(4)関連科目

・レベル1:経営及び経営分析の基礎、 経営及び経営分析の基礎(事例)

・レベル2:事業計画(応用) (支:事業主等ではレベル3)
財務会計(支)、経営分析の応用(支)

・レベル3:経営管理、事業計画(診断) (支)



事業計画(応用) (支援スタッフコースのみ)

(1)科目のねらい

これまでに学んだ内容をすべて使ったレベル2の「わかる」の総仕上げとして、6次産業化の事業計画を練り上げ、実際に6次産業化に携わる力を身に付けます。

(2)単元の内容

事業計画書の作成演習

事業計画書を一通り受講者自身の手で作り上げます。 最終的には、金融機関に対して融資を取り付けられることを到達のイメージとしています。

事業計画作成中は適宜講師がファシリテーションを行い、最終的に受講者本人が計画のプレゼンテーションを行うようにします。事業計画の内容、プレゼンテーションの内容などを総合的に評価・フィードバックをすることで、新たな気付き、今後の課題などを明らかにし、持ち帰ってもらうことを目指します。

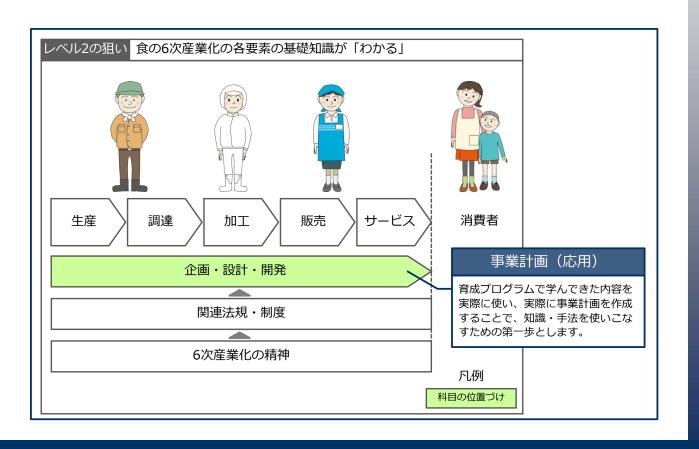
プレゼンテーションの場には、地元の有識者・金融機関・行政担当者・食Pro.レベル4認定者などに審査員を依頼し、受講者がその後6次産業化に携わるにあたって、有益な人的ネットワークを築くことができるように工夫することが望ましいです。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- 実習×360分
- ・受講者自身が当事者として事業計画を立案することを 重視します。
- ・個人演習かグループワークかは問いません。
- ・連続で実施するのではなく、適宜開講日に間を空け、 アイデアを練る時間、調べる時間などが取れるように する方法も効果的です。

(4)関連科目

・レベル2:事業計画(基礎)



経営分析の応用(支援スタッフコースのみ)

(1)科目のねらい

レベル1の「経営及び経営分析の基礎」「経営及び経営分析の基礎(事例)」、レベル2の「財務の基礎」「6次産業化事例分析」で身に付けた知識・手法を用いて実際の1次、2次、3次産業の経営分析を行い、手法理解を深めるとともに、1次、2次、3次産業における経営状況の違いを理解します。

(2)単元の内容

①農業者・漁業者の経営分析、②他業種の経営分析(食品メーカー/流通・販売業者/飲食店等)

農林水産業起点で高度な経営を行っている事例と2次、 3次産業の事例を比較し、両者の違いを分析します。

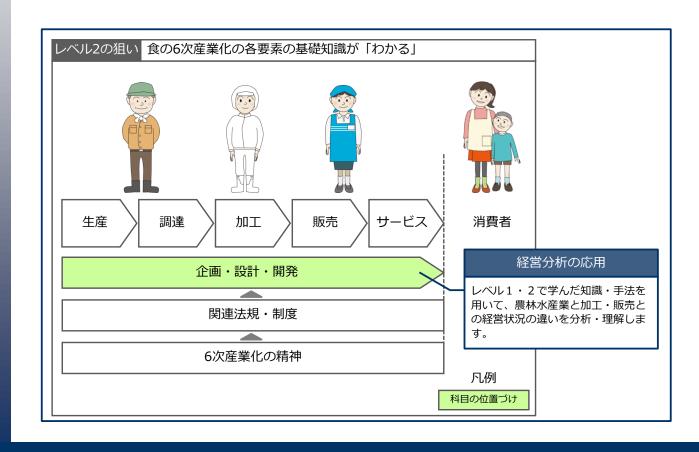
(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · (座学+事例演習) ×90分
- ・ケースメソッドの有効活用を推奨します。
- ・時間に制約がある場合を考慮し、テーマを絞った時 に最低限必要な時間として記載しています。その場 合でも、事前課題などを適切に取り入れて運用する ことを推奨します。

(4)関連科目

・レベル1:経営及び経営分析の基礎 経営及び経営分析の基礎(事例)

・レベル3:経営戦略、経営戦略(事例)



財務会計(支援スタッフコースのみ)

(1)科目のねらい

支援スタッフに求められる6次産業化の事業計画の診断・助言・戦略提案力の基礎として、財務諸表を読み、 使いこなす力を身に付けます。

具体的には、財務諸表のうち、貸借対照表・損益計算 書・キャッシュフロー計算書の意味と各表の構成要素を 理解し活用法を習得します。

(2)単元の内容

①財務諸表の基本と読み方

損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書等の意味・構造・読み方を理解します。例えば、損益計算書の場合、売上高とさまざまな利益(売上高総利益、営業利益等)や資本の概念と関係を理解します。

②主要な財務指標の種類と使い方

各種売上高利益率、売上原価率、自己資本比率、固定 比率などの算出式・意味、支援スタッフとしての使い方 (収益性分析、安全性/流動性分析など)を学びます。 例えば、総資本経常(営業)利益率、売上高経常(営業)利益率、総資本回転率の意味・関係性が挙げられます。また、公表データ等から企業経営の農業法人、食品製造業等の一般的な財務指標の水準とその参照の仕方を理解します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- · 座学×90分
- ・座学の中で、簡単な演習問題を解きながら理解を深めることを推奨します。

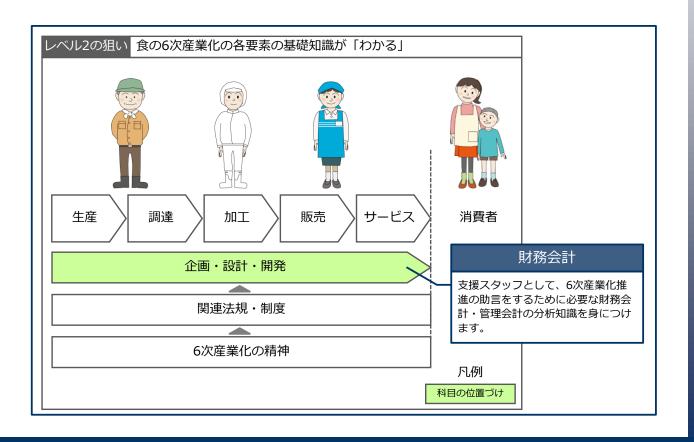
(4)関連科目

・レベル1:経営及び経営分析の基礎、

経営及び経営分析の基礎 (事例)

・レベル2:財務の基礎、経営分析の応用 ^(支)

レベル3:経営管理



金融制度(支援スタッフコースのみ)

(1)科目のねらい

農林水産業や中小企業等が資金調達をする際に活用可能な金融支援策を理解します。特にどのような支援策があるのかというメニューを知り、さらに各支援策の資金的なメリットとデメリット(制約)を理解し、事業を外部からサポートする際に活用できるようにします。

(2)単元の内容

・農林水産、中小企業向け金融支援制度

日本政策金融公庫の各種農林水産業・中小企業向けの 金融支援制度などについて情報収集と内容習得を促しま す。

例えば、農林水産業向けでは、スーパーL資金、農業 近代化資金、食品流通改善資金、農林漁業施設資金(共 同利用施設)などの制度理解が想定されます。また、中 小企業者向けには、新事業育成資金、新事業活動促進資 金などが想定されます。 その他、農業法人投資育成制度や農林漁業成長産業化ファンド(A-FIVE)なども理解することで、さまざまな支援制度に対する知識向上が図られます。

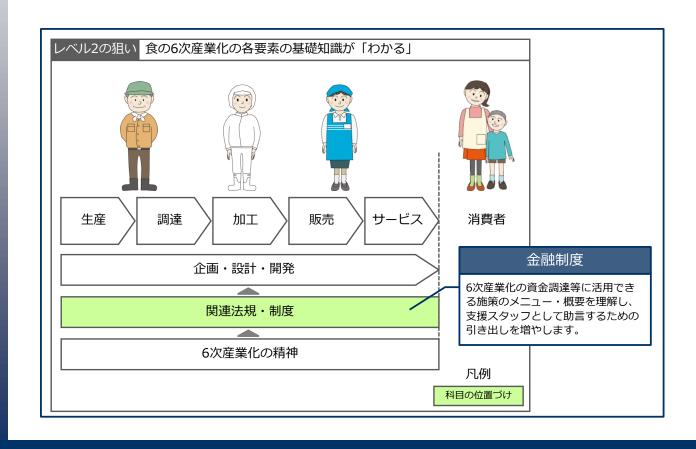
本科目では、地域の専門家を講師として招くことで、 受講者にとっての相談窓口づくりの場とすることを推奨 します。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

·座学×30分

(4)関連科目

・レベル3:6次産業化関連制度



コーディネート手法(基礎) (支援スタッフコースのみ)

(1)科目のねらい

食の6次産業化は、生産から販売・サービスまでのさまざまな立場・利害関係・思考パターンのメンバーが協働することで成立します。食Pro. (特に支援スタッフ)には、そのようなメンバー間の調整をすることが求められます。

本科目ではその基礎力を身に着けることをねらいとしています。レベル3の「コーディネート手法(応用)」の前段として位置付けられます。

(2)単元の内容

①論理的思考

食Pro. として活躍する上での基本となるロジックツリーなどの論理的思考力を学びます。同時に、論理的思考は必要以上に相手に向けて使わないなど、前向きに使う留意点も解説します。

②聴く

「聞く」「訊く」「聴く」の違いを理解し、コーチング・ファシリテーションの基礎となる「傾聴」の概念を 理解します。

③書く

建設的な議論を進めるためには、議論の内容を整理し、板書する力・記録を取る力が求められます。また、各種申請書等の作成支援を行う場面も想定されます。これらの場面で役立つ論理的な文章の書き方・まとめ方を学びます。

④話す

自分の考えを端的に伝え、かつ相手の意見を引き出す力を身に付けます。例えば、5W1Hの明確化、相手から引き出したい反応の明確化などを学びます。

(3)講義形式/手法・必要履修時間

- ・ (座学+実習) ×90分
- ・実習は講義内でのワークを想定します。

(4)関連科目

・レベル3:コーディネート手法(応用)

